

浪江で、ともに

あおた荘・なみとも 和泉 亘さん

誰でも来れる交流拠点

■現在の活動

浪江町で、ゲストハウス「あおた荘」の管理人と、町内で活動する団体「なみとも」の副代表をしています。あおた荘は町内外問わず、訪れる方の交流拠点として運営、なみともはみんなが共に楽しいと思える地域を目指し、町民と若者の交流イベントなどを企画運営しています。



にこやかに迎え入れてくださる和泉さん



設置されたスクリーン
Wi-Fi完備で映画も楽しめます



もともと下宿をしていた青田荘

気軽に来れる場所を

■活動のきっかけ

白河市出身だったためか、浪江町のことを深く知りませんでした。高校卒業間近に東日本大震災・原発事故後を経験、非常に混乱しましたが専門学校へ進学、そのまま県外で就職しました。

東京でしばらくハードな仕事をしていましたが、社会問題解決を目指す仕事やNPOに興味を持つようになり、2016年12月から福島に戻って「みんぷく（※）」で勤務を始めました。そのころ浪江町は避難指示解除が控えていて、多くの浪江町民が「戻りたいけど戻れない」と言っていました。不安な声を聞く中で「誰でも安心して来れる場所を浪江町内に作りたい」と思い、避難指示解除直後から浪江町内でボランティアを始めました。

ところが浪江に入ってみると、自分をはじめとしたボランティアが宿泊する場所、人が集まる拠点が無いことが課題だと感じました。早期から浪江町へ移住を決意したものの自分の住処も決まらず、テント生活すら考えました。幸いにも2017年参加した夏祭りで偶然この物件を紹介され、宿泊と交流拠点を兼ねた現在の活動をする事につながりました。

※NPO法人みんぷく：復興公営住宅でコミュニティ形成や自治会形成の支援を行う団体。

一緒に作業をするからこそ

■活動を通じての思い

被災者の抱える課題が多いことは確かですが、「交流して少しでも楽しく過ごしてもらおう」ことを念頭に活動してきたため、活動自体を苦しいと感じたことはありません。「復興のために」という使命感ではなく、一町民として自然体になっています。

浪江町では、震災・原発事故を経験した場所だからこそ、たくさんの人と協力しながら活動ができます。人のつながりが強い地域だと思うので、私もこの拠点を通じてつながりを広げ、町をより良くしていきたいです。

また、地域では活動のプロセスが非常に大事だと思っています。あおた荘は当初、震災から6年以上の年月で動物の被害などがあり、利用できる状態ではありませんでした。共同作業することでつながりを生みたいと思い、あおた荘の掃除もイベント化したところ、50人もの方が集まってくれました。そのおかげでつながりが強化されたと思います。



多くの方が集まった掃除イベントの様子

新しく、面白いものが生まれる場所

■今後の活動

今後は、地域に興味を持つ方の「浪江の窓口」として拠点機能を持ちながら、浪江のファンが増えるように、地域と交流できる機会を作っていきたいと思います。

■メッセージ

浪江町は気軽に来れる場所なので、ぜひあおた荘を拠点に遊びに来て下さい。若者の自分にとっては飲食店も増え、生活に不便に感じることはないですし、まちづくりキャンプなどの活動が行われる面白い場所です。あおた荘では外部の方と町民の交流もあり、役場の方も遊びに来るなど、東京の頃より人とのつながりを感じながら活動できます。

あおた荘のHPはこちら：<http://aotasou.strikingly.com/>

あおた荘のフェイスブックはこちら：<https://www.facebook.com/namieaotasou/>



和泉さん（左）と共同管理人の小林さん（右）



「ぜひ遊びに来てください」と話す、和泉さんと看板犬のそうちゃん